



## 目次

薬用植物の紹介	薬用植物園長	草野 源次郎	1
新学歌制定	学長	矢内原 千鶴子	2
第50回日本薬学会近畿支部総会・大会，本学で開催	教授	栗原 拓史	4
平成12年度市民講座を終えて	市民講座委員長	玄 番 宗一	5
平成12年度公開教育講座	公開教育講座委員長	田中 一彦	6
進学説明会とオープンキャンパス	広報委員会		8
第35回大薬祭を振り返って	学生部長	稲森 善彦	9
平成12年度就職状況中間報告	就職部長	千熊 正彦	10
平成11年度学校法人決算について	事務局長	河野 光次	11
法人人事			11
教務課だより			12
図書館だより			12
学生課だより			13
総務課だより			15
後期行事予定			16

## オトギリソウ *Hypericum erectum* Thunb.

表紙写真のオトギリソウはオトギリソウ科の多年生草本で、日本、朝鮮、中国、サハラに分布し、日当たりのよい丘や山野の草地に生える。夏から秋にかけて、茎や葉は赤褐色を帯び、その頃に枝分かれた茎の先端に、5弁の黄色花卉のきれいな花が咲く。花は一日花で、多数つき長い間次々と開花する。葉に多数の斑点があり、その特徴が和名の由来になっている。この植物は鷹匠が鷹の傷を治す秘伝薬として使ってきたが、弟がそれを他人に漏らしたので、怒った鷹匠の兄が弟を切り殺した。その飛び散った血が、この植物の葉の斑点になったという。

約400種の同属植物が知られており、きれいな花が長期間咲くので、数種が園芸植物にされる。オトギリソウの花よりは大形の花を咲かせるキンシバイ、ビジョウヤナギ、*H. calycinum* などが、団地の花壇、公園などでよく見られる。最近、セイヨウオトギリ *H. perforatum* L., St. John's wort (夏至の頃に咲き始め、聖ヨハネ祭に参加する人の髪飾りとして使われる。花の汁が血を連想させ、処刑されたヨハネをしのぶ信仰と関連づけられた草) が大きな関心を買っている。

セイヨウオトギリはヨーロッパ原産で、わが国には園芸用として渡来し、最近では帰化植物のように野生化しているものもある。花卉が1.5cm～2cmあり、オトギリソウの花の約2倍大きい。茎は2稜性で、オトギリソウの茎が円柱状であるのとは違っている。オトギリソウの葉を陽に透かして見ると、多くの細かい黒色の斑点が見られるが、セイヨウオトギリでは斑点が透明で、葉に穴が開いているように見える。

セイヨウオトギリは昔から治癒快感を示す植物として知られてきたが、アメリカでの抗うつ薬の代替薬としての利用拡大が契機になり、多くの知見が蓄積された。その中から重要と思われるものを挙げて見よう。

1) 抗うつ作用の本体はヒペフォリン (ハイペフォリン) で、神経シナプスでの神経伝達物質 (セロトニン、ノルエピネフリン、ドーパミン) の再取り込みを阻害する。

2) 三環系抗うつ薬 (イミプラミン、アミトリプチンなど) を比較薬とし、ランダム化比較試験では、

St. John's wort エキスは軽症から中程度のうつ症状を改善する効果を示し、合成抗うつ薬と同程度であった。まれに光線過敏症の皮膚炎が認められたが、合成抗うつ薬のような幻覚、妄想、せん妄などの副作用は認められなかった。

3) St. John's wort エキスは薬物代謝酵素 CYP3A4 を誘導し、薬物の代謝が加速される。本体はヒペフォリンで、pregnane X receptor (PXR) を活性化し、肝細胞での CYP3A4 の発現を誘導する。

4) St. John's wort エキスとの相互作用が明らかになった薬物は、HIV protease 阻害薬、腎移植と肝移植時の拒否反応抑制薬、強心薬、経口避妊薬などである。

5) St. John's wort エキスによる皮膚炎の本体はヒペリシン (ハイペリシン) で、その構造からは高い蛋白との結合性やラジカル産生が予想され、皮膚炎以外の毒作用が心配される。

ここまで明らかになったので、St. John's wort エキスの健康食品としての使用は止めるのが賢明である。それよりはヒペフォリンをリード化合物として、抗うつ薬の開発を行い、薬物の相互作用に注意しながら、抗うつ薬として利用したいものである。最近では少量で効く薬物が多くなっており、肝臓や腎臓に対する負担が軽減されると期待されながら、一方では代謝酵素の阻害や誘導による相互作用が、重大な結果をもたらすケースが多くなっている。食品のグレープフルーツジュースのフラノクマリンゲラニールによる代謝酵素阻害や、食品補助剤の St. John's wort エキスのヒペフォリンによる代謝酵素誘導は新たな問題を提起している。薬剤師は薬物の使用量が数mgか、数百mgか、その他の薬剤や食品、補助剤なども含めて、細心の注意を払うべきことを教えている。

オトギリソウもセイヨウオトギリと類似の成分を含有しており、民間では傷薬として外用される。一部にエキスを内服する地域があるので、皮膚炎だけでなく、薬物相互作用についても、セイヨウオトギリと同様に注意されるべきものである。

(薬用植物園長 草野源次郎)

# 新学歌制定

学長 矢内原 千鶴子

“今乾坤の暁け初めて”の学歌は、かつて“光満つ河内が原”で多くの関係者の皆様方によって愛唱され、育まれて参りました。しかし、平成8年、“阿武野の丘”に抱かれる新校舎への移転を機に、この地にふさわしい歌詞の新学歌をとの要望もあり、このたび作詞明珍昇先生、作曲当間修一先生による清新な新学歌が誕生いたしました。この清々しい新学歌が、多くの諸先輩の熱い想いのこもった学歌とともに、21世紀における本学の新しい発展の応援歌となることと信じております。

ここに、新学歌のためにご努力いただきました明珍昇、当間修一両先生ならびに学歌選定委員会の先生方に心より厚く御礼申し上げます。

学歌選定委員 濱 中 久美子

この報告は本来なら学歌制定委員長として、学歌の選定のために奔走なさった望月先生がなさるはずでございますが、残念ながら既にご退職になっておられます。そこで代わりに、望月先生とともに学歌の選定に関する委員会に、最初から最後までかかわっておりました私の方から、簡略に学歌の選定の経緯を報告させていただきます。

本学が平成8年に高槻市へ移転するのに伴い、現在の学歌では歌詞に松原市を中心にした地名などが織り込まれており適当ではない、この際、新学歌を募集してはどうかとの声が学内よりあがりました。そこで岡前学長の要請により、教職員による学歌制定委員会が組織されました。委員会は大阪薬科大学の学生・院生・教職員・父兄会（現：育友会）・同窓会、及びその推薦された方々を対象に新学歌の応募を募ったところ、（平成8年9月30日締め切り）4人の方より応募がありました。これらについて制定委員会は学生・教職員にアンケートを行い、このアンケートの結果を踏まえて意見をまとめました。しかし制定委員会の任務はここまでであるという結論に至り、その後の最終決定は新しい学歌選定委員会に委ねられ、受け継がれることになりました。

学歌選定委員会は、大村前理事長、岡前学長を初めとして、教職員代表・学生代表・同窓会代表の方々を含む計11名の委員によって組織されました。この委員会によって平成9年5月から、先に応募された歌詞などの中から新学歌の選定が始まりました。

しかし、いずれもこのままでは学歌にはふさわしくないとの結論に至りました。そこで平成9年6月28日までに、新たな応募者を募り、また既に前回は応募された方々にも、こちらの要望をお伝えしたうえで、応募された作品の修正、もしくはアレンジをお願いしました。その結果、前回は応募の方々のうち、お2方と、同窓会の方々から新たに5編の応募があり、学歌選定委員会は慎重に審議のうえ、3編（明珍昇・紙中礼子・関沢忠重のお3方）を候補作品として選びました。そしてこの3編につき再び学生・教職員のアンケートをとり、決定の際の参考にさせていただきました。このうち1編は曲もついておりましたが、他2編は曲がついておりませんでしたので、歌詞のみの審査で、明珍昇氏を1位に、紙中礼子氏・関沢忠重氏のお2人を佳作ということに決定いたしました。

明珍先生の歌詞には曲がついておりませんでしたので、作曲は現在の学歌の作曲者の仲栄一氏のご健在ならば、再び依頼したいとのことで調べましたが、その時点では全くご消息が分かりませんでした。（現在は仲栄一氏は実は作曲家の中沢ひさし氏と同一人であることが判明しております。）そこで本学の混声合唱団の音楽アドバイザーとしてご指導いただいている「大阪コレギウム・ムジクム」代表、当間修一先生に依頼することにしました。

平成10年9月11日の学歌選定委員会において学歌の作詞は明珍昇氏、作曲は当間修一氏をお願いする

ことが正式に決定いたしましたので、作詞者・作曲者をお引き合わせし、矢内原現学長より正式に依頼いたしました。平成12年1月に、作曲者の当間先生から新学歌の楽譜と、録音テープを送っていただき、平成12年2月7日に、現在の学歌選定委員全員の出

席の下、学歌選定委員会が開催され、異議なくこの曲が新学歌と決定されました。その後、拡大教授会、さらに全教職員に新学歌が披露されると共に、新学歌選定の経緯を報告いたしました。

大阪薬科大学新学歌

明 珍 昇 作詞  
当 間 修 一 作曲

The image shows a musical score for the Osaka Pharmaceutical University New School Song. It consists of five systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment line. The lyrics are written in Japanese and are aligned with the notes. The score is written in a standard musical notation with a treble and bass clef.

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p>1. 日<sup>ひ</sup>登<sup>のぼ</sup>り さまやかに 雲 晴れて<br/>阿武野の 丘に 英氣 充つ<br/>萌え立つ 木々の 若みどり<br/>愛と 眞理<sup>まこと</sup>を たたえゆく<br/>みよ うるわしき まなびやは<br/>誇りも 高き 大阪薬科大学</p> | <p>2. 三<sup>さん</sup>すじの 流れ 呼びあつめ<br/>ゆたかに めぐむ 淀の 瀬<br/>基<sup>もと</sup>を たずね あたらしき<br/>科学<sup>がく</sup>の 粋<sup>こゝろ</sup>を 究めゆく<br/>日々 躍進<sup>えつしん</sup>の まなびやは<br/>かがやく 知性 大阪薬科大学</p> | <p>3. めぐる 宇宙の 輪の中に<br/>人から 人へ 架ける 虹<br/>医薬の 使命 知恵 ふかく<br/>世紀の 風を 切りひらく<br/>ゆめ すこやかな まなびやは<br/>自由の光 大阪薬科大学</p> |
|--|--|---|

# 第50回日本薬学会近畿支部総会・大会，本学で開催

教授 栗原拓史

記念すべき第50回日本薬学会近畿支部総会・大会が2000年10月28日(土)本学で開催された。高槻新キャンパスで矢内原学長を迎えて初めての支部会当番校である。今年1月初旬に矢内原準備委員長以下、沼田(広告・協賛)、池田、石田(プログラム編成)、玄番(懇親会)、千熊(総合受付)、掛見(会場設営)各教授並びに庶務幹事担当の私からなる準備委員会が発足した。今回の特別講演者として松澤佑次教授(大阪大学大学院医学系研究科)をお願いすることや、例年通り一般学術講演8部会から構成されることなどが決定された。ファルマシア5、6月号にそれぞれ予告掲載された後、6月12日から講演申込受付が開始された。例年になく多くの申込があり、一般講演192演題、平成11年度支部奨励賞受賞者講演8題の総数200演題を数え、うれしい悲鳴といった感があった。7月末からプログラム編集、座長の選出などの作業が進められる一方、ファルマシア10月号プログラム掲載に向け、演題などの登録が始まった。8月初旬にプログラム編成、座長および部会場が決定され、12日に薬学会本部への原稿発送にこぎ着けた。盆休みの後、学会用プログラムの編集が完了し、印刷へとまわされた。8月末から企業などへの広告・協賛の依頼状発送が開始され、9月初旬には、プログラムが近畿支部役員、顧問、座長、発表者などの関係部署に発送された。9月25日講演要旨原稿締切、広告・協賛の申込み出そろい始め、ほぼ予定通り10月10日に要旨集印刷が開始された。

10月24日、学内関係者への学会当日役割分担の提示や運営マニュアルの説明会、前日に関係者全員協力のもと、開催に向けての設営が進められた。基本的な設営はJapan Convention Services(JCS)が行ったが、慣れないことや手際も重なり、皆様方に多大なご迷惑をお掛けしたことをこの場を借りてお詫びしたい。お陰を持って、7時前にほとんどの

準備を終えたが、細部にわたる全ての作業が完了したのが10時半を過ぎ、身をもって準備作業の大変さを痛感した。

当日の朝は曇天であった。何とか雨だけは……と願っていたが昼前から降り始めた。早朝9時からの一般講演の開始、12時に午前の部を終了し、20分から支部総会が開催された。矢内原準備委員長、大森支部長のご挨拶の後、予定されていた審議事項を終え、杉浦次期支部長が抱負を述べ閉会した。1時から午後の部が始まり、支部奨励賞受賞者講演を含む全ての一般講演が無事、予定の時刻に終了した。この中には、平成12年度支部奨励賞応募演題が16題含まれている。

5時20分から、松澤教授による「生活習慣病と脂肪細胞」と題する特別講演が始まり、この研究分野の最先端を行く先生のご講演を興味深く拝聴することができた。

天候不順にもかかわらず、4名の顧問の先生方を含む招待者14名、学外からの参加者493名(一般279名、学生214名)、学内参加者177名の総数684名の皆様方にご参加いただき、心から厚く御礼申し上げる次第である。

特別講演終了後、食堂において懇親会が開催された。松澤教授、顧問の先生方はじめ105名の学外からの先生方に加え、学内からも多数の教職員が参集した。矢内原学長の挨拶に始まり、西村理事長、大森支部長のご挨拶に続いて、藤田元学長による乾杯のご発声で和やかな宴が始まった。途中、次期開催校である神戸薬科大学伊藤学長から最初の予告を含めたご挨拶を頂戴し、中締めとなった。

終わりに、本会の開催に当たり、全面的にご協力頂いた学内関係者各位に感謝申し上げますと共に、広告・協賛にご協力頂きました企業各位に衷心より御礼申し上げます。

## 平成 12 年度市民講座を終えて

市民講座委員長 玄 番 宗 一

本年度最初の市民講座は、第 9 回として 6 月 3 日(土)に、秋には第 10 回を 10 月 14 日(土)に開きました。参加者数は 2 回の延数として 600 名に達する多数の参加者がありました。今年度においては、『高齢者の疾患と介護・漢方薬』を取り上げましたが、市民に十分に答えることができたと思っています。市民講座は、大阪薬科大学が地域に開かれた大学として、薬用植物園見学会と共に、市民との接点を得る貴重な機会として定着したようです。

第 9 回において、最初に大阪市立弘済院附属病院内科副部長揖場和子氏に『高齢者の介護—みる側とみられる側—』と題して、みる側とみられる側の両方が、世代間のギャップを越えて長寿社会を見つめる必要性を説かれました。併せて高齢者女性に多い骨粗鬆症についても詳しく解説されました。次に阪和第二泉北病院内科部長山本秀樹氏から『痴呆と介護』について、その現状と痴呆の予防法やケアの話題を提供して頂きました。両演者は第一線の臨床医であるだけに、その内容はたいへん説得力のあるものでした。なお、山本秀樹先生の講演内容は、一冊の本として読者に痴呆症への理解を広めるために、『痴呆症の早期診断と早期介護』と題して出版されました。

第 10 回には、講演 1 として『民間薬と漢方薬』について、本学教授草野源次郎氏が両薬の違いと特徴及び高齢者疾患の治療への漢方薬の必要性を説かれ、講演 2 では、関西医科大学名誉教授小川亮恵氏が、『高齢者の膝の痛み』について、その主な原因疾患

である骨関節症(変形性関節症)を例にあげて、症状の進行の予防や治療について、ユーモアをまじえながらたいへん興味深く話されました(出版予定)。参加者から、『痛みに悩んでいたが気が楽になった』などの反響を得ることができました。今年度 2 回にわたる参加者のうち、希望された方には、第 10 回当日に『修了証』をお渡しし、喜んで頂けたらと思います。

12 時半から始まった薬剤師の方々のご協力による『くすりの相談室』は、市民からの相談でこれまでになく盛況でした。薬用植物園の見学や薬草の展示も市民にとっては、大きな関心事です。参加者数の多さは、広報活動の努力の賜物と言えましょう。

参加者のアンケート集計結果から、市民が今後企画を希望するテーマとして、トップに『生活習慣病』があり、『くすり』、『痴呆』、『コレステロール』の後に、『漢方・薬草』、『アレルギー』や『骨の病気』が続きます。今後の企画の参考になりそうです。

最後になりましたが、共催して下さいました高槻市、日本薬学会近畿支部、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会ならびに大阪薬科大学同窓会、また後援下さいました大阪府および高槻市教育委員会に厚くお礼を申し上げます。また、資料などの提供をいただきました協賛企業に感謝申し上げます。今後も、市民のご要望に応じて一層内容を充実させ、市民講座が地域に根付くことを祈念します。



第 10 回市民講座で講演している本学草野源次郎教授と聴き入る市民。左端でスライドや音響のコントロールなどを、第 2 薬劑学教室にお世話願った。



『くすりの相談室』で市民の相談に当たる(左から)角井義昌氏、河原林進一郎氏及び有田浩和氏。毎回大阪府病院薬剤師会のご協力を得ている。

## 平成 12 年度公開教育講座

公開教育講座委員長 田 中 一 彦

大阪薬科大学の公開教育講座は、昨年度で23回開かれ、また、「高度医療社会での薬剤師の役割」でのメインテーマも10回を数えた。本年度は、これらの実績を踏まえ、さらに発展させるため、①病院薬剤師向けと開局薬剤師向けのテーマを交互に取り上げる。②時事性をもたせるため、メインテーマはその都度取り上げる。③開局薬剤師の方も参加しやすいように日曜日に行ってみる。④出来るだけ卒業生の方に参加してもらるようにする、など4つの項目を本年度の主な方針とした。

第24回の公開教育講座は5月13日(土)、「心臓移植の最前線」をメインテーマに、医師の立場からは国立循環器病センター研究所の中谷武嗣先生に、薬剤師の立場からは同薬剤部の上野和行先生にご講演願った。参加された方のアンケートによれば、「移植医療に対する薬剤師の立場の重要性を認識させられた」、「移植そのものについて考えさせられた」、「時事性に富んだテーマで興味深かった」など、主催者側の意図を汲んでいただいている感想、ご意見が多かった。しかし、如何せん、有料参加人数が約60名と少なく、参加人数そのものも100名前後であった。第25回の公開教育講座は、本年度の方針の一つである日曜日の7月23日に開講した。メインテーマは「在宅医療の現在」として、一在宅ケアの実践をサブテーマに医師の立場から出水クリニックの出水明先生にご講演いただき、また「薬局・薬剤師の転換期」をサブテーマに、薬剤師としての介護保険と医療保険への関わりについて、奈良県薬剤師会の七海朗先生にご講演願った。初めての日曜日の開講であり、協力教室や関係者の方にご迷惑をおかけした割には、有料参加者は約70名であり、思っていたような有料参加者の増加に繋がらなかった。アンケートの結果でも、必ずしも日曜日に参加しやすいというご意見ではなく、従来通りの土曜日の希望者が多かった。

なおこの回はコンピュータの不調による視覚資料の提示の遅れ、喫茶コーナーの閉店など行き届かない点も多く、今後の糧としたい。

各地で公開教育講座と同様の講座も開かれており、単に参加者を多くするのが目的ではないものの、講師の先生方のご講演は有意義なものであり、今後の薬剤師の活動に多に参考となると思われるので、やはり多くの方に聞いていただきたい。このためには出来るだけご芳志を頂戴している同窓会の方(この2回の公開教育講座においては参加者の1/3程度に減少している)、また、在学生の積極的な参加を図りたいと思っている。

第26回の公開教育講座は11月18日(土)、「EBM」をメインテーマに「EBM—チーム医療の中での薬剤師の役割—」をサブテーマとして、福井医科大学医学部附属病院薬剤部長の政田幹夫先生に、また「誰でも出来るEBM—僻地診療所の現場から—」をサブテーマに、作手村国民健康保険診療所長の名郷直樹先生にご講演していただいた。これらの講演についての参加者の感想としては、「EBMの必要性が理解できた。この講演は、学生や卒業間もない人達こそ受けるべきだと思う。」、「EBMがどんどん導入されていくと、突拍子もない新しい薬の効能を求めてのTrialが少なくなると考えてしまうが、それはその薬の発達にとっていかなものか疑問に思う。EBMをするからにはDataが必要、それを作っていく作業を教えていただいた。自分達でもできるのだと感じた。」などで、EBMを身近にとらえていただいたように思われる。

第27回は2001年2月17日(土)「医療経済」をメインテーマとして、「今医薬品の流通に何がおきているか」をサブテーマに、クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社取締役社長木村文治氏に、また「医療保険制度と薬剤支出」をサブテーマに、京都

大学経済学部教授西村周三先生にご講演をお願いして開催する予定である。これら年4回開催の結果を見て、公開教育講座そのものの意義を再検討しなければならない時機に来ている、と痛感している。

最後になりましたが、共催いただきました(財)日本薬剤師研修センター、日本薬学会近畿支部ならびに後援いただきました(財)大阪府薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。



第24回 公開教育講座



第25回 公開教育講座

【平成10年度 公開教育講座】

開催月	5月	7月	10月	2月
公開教育講座	第16回	第17回	第18回	第19回
有料参加者数	135人	138人	109人	109人

【平成11年度 公開教育講座】

開催月	5月	7月	10月	2月
公開教育講座	第20回	第21回	第22回	第23回
有料参加者数	87人	101人	102人	104人

【平成12年度 公開教育講座】

開催月	5月	7月	11月	2月
公開教育講座	第24回	第25回	第26回	第27回
有料参加者数	58人	67人	72人	—



# 進学説明会とオープンキャンパス

広報委員会

## 進学説明会

高等学校ならびに予備校の各先生方を対象とする進学説明会が6月6日(火)の大阪東急ホテル、6月13日(火)の広島ガーデンパレスにおいてそれぞれ開催されました。両日の延べ出席高等学校数は約130校と昨年を上回る盛況を見ました。説明会では本年度新たに導入を試みるアドミッションオフィス入試(AO入試)、あるいは大幅な変更を試みる推薦入試などについての質問が集中し、先生方の本学への関心の深さを伺うことができました。



## オープンキャンパス

平成8年、松原より高槻への本学移転とともに始めた新学舎でのオープンキャンパスが今年も8月31日(休)、8月30日(休)の両日にわたり開催されました。本オープンキャンパスでは、入試の種類とその内容—AO入試、推薦入試、一般入試C方式(センター試験利用入試)、F方式(調査書の評価を加味した入

試)、G方式(三教科入試)、帰国生徒特別選抜入試、編入試について、また就職状況などの概略の説明が行われた。次いで例年通りの情報科学教室でのCGならびに電子顕微鏡施設の見学などが行われました。さらに本年度初めて模擬実験に代える新たな企画である研究棟(1~6階)を全面開放した研究室見学を実施してみました。本オープンキャンパス実施後のアンケートによりますと、本年度の研究室開放の企画は比較的良好のようでありました。各研究室がとて物珍しく、明るく、さらに教職員からの丁寧な説明など大変好評でした。本オープンキャンパスへの参加者がこれらの学内見学などにより、入学後の自らの実験・実習の姿を垣間見ることが出来たのではないかと推測されます。また、学内見学とともに開設した個別相談窓口では、本年度実施予定のAO入試への質問が大半を占めたようです。なお本年度のオープンキャンパスへの参加者は、延べ約550名と前年度にもまして本学における盛大なイベントの一つとなりました。



## 第35回 大薬祭を振り返って

学生部長 稲森善彦

第35回大薬祭は、関係各位のご支援とご協力により、11月5日無事終了した。実行委員の諸君の連日連夜の努力と情熱が天に通じたのか、開催前日の大雨は開催日の3日には止み、その上、4日の天気予報では午前中の降雨確率40%と予報されていた最終日は見事な晴天で、懸案のフリーマーケットも開催できた。ここに、改めて、実行委員をはじめ参加した各クラブ部員、一般学生の努力と情熱に大きな拍手を送りたい。テーマの『ミックスジュース』を参加学生は存分に味わった事と思う。極少数の実行委員は開催日までの数か月間ジュースによる食中毒もせずよく頑張ったと痛感している。さすが、薬剤師の卵であると感心した。これら一連の苦労は必ずや君達の将来にプラスとなって帰ってくると私は確信している。

また、大薬祭にご参加下さり、ご支援、ご協力賜った教職員の皆様に衷心よりお礼申し上げたい。特に、今年の大薬祭は3連休であったにも拘わらずご多忙中ご出席賜わり、有り難く思っている。おそらく、実行委員の諸君も心から喜び、感謝しているものと思う。近日、実行委員諸君と反省も含めて、大薬祭を振り返りたいと思っているが、ここでは、大薬祭の3日間を簡単に振り返ってみたい。

1) 例年のように、全学生の数に比較して参加学生の数は今年も少なかった。過密スケジュールの中、連日連夜、徹夜に近い準備をした実行委員の苦労を思うと気の毒でもあるが、この現象はなにも大阪薬科大学に限ったことではなく、近頃全ての大学で見られる風潮でもある。しかし、昨年同様、この穴を近隣の人々が埋めてくださった。初日は家族旅行のためか、あるいは肌寒さもあってか、出足が余り良くなく心配したが、良く晴れた3日めはフリーマーケットもあってか、結構賑わい、大盛況であったと思う。

2) 模擬店は昨年同様、厳重な注意と監視のもとに開店した。何一つ事故もなく終了できたのも、実行委員や各クラブの部員が保健所や私共の指導や意見をよく聞いてくれた結果と感謝している。参加学生、教職員や近隣の人々が美味しそうに召し上がる

のを見て、大成功と実感した。学生のバスの中でのマナーについて、あるいは、迷惑駐車についての苦情などが出ているが近隣の住民と少しは良い関係を持たたのではないかと考えている。

3) 急性アルコール中毒の防止に関しては、開催ぎりぎりまで、実行委員に注文をつけたが、参加学生諸君の品性と知性で、事故なく終了できた。これも偏に実行委員の理解と協力のお陰と学生部ならびに学生課を代表して衷心からお礼申し上げたい。今年初めての企画であった『親子科学実験教室』も学内の有志の先生方のご協力により大盛会のうちに、無事終了した。平素、できない体験をした小学生は目を輝かせていたのが脳裏に刻まれた。『筑利夫トークショー』も大盛況であった。市民セミナーでは望月伸三郎先生（大阪薬科大学元教授）に健康についてご講演を賜った。また、薬用植物園見学会も大盛況であった。毎年恒例の園児たちによる発表会も大変良かったし、Daiyaku Collection, Miss & Mr 美少女～ミレニアム～も面白かった。その他、各クラブの発表会も平素の訓練を十分発揮するまたとない良い機会であったと思う。私も審査委員を頼まれたが、何と言っても大薬祭のフィナーレは『薔薇の祭典』である。数少なくなったクラブのなかでの熱演には涙がでる思いがした。以上すべてが大好評で、100点満点の大薬祭であったと思う。この3日間の大薬祭に休日にもかかわらず、講師として、助言者として、審査委員としてご出席賜った先生方ならびに職員の皆様にも心からお礼申し上げたい。さらに、種々ご援助いただいた同窓会、育友会、各企業、地元自治会をはじめ関係各位に衷心からお礼申し上げたい。最後に、私事で大変恐縮であるが、在職中に2度も学生部長に選出され、合計4回の大薬祭を学生諸君と共にしたが、教職員各位のご協力のもとに、苦しい反面、エネルギー溢れる若き諸君と接することが出来たことがせめてもの慰めであった。今後は、実行の伴う若くて理解のある学生の好きな教授の方にバトンが渡り、素晴らしい大薬祭が行われていくことを祈念して、私の『大薬祭を振り返って』としたい。

# 平成 12 年度 就職状況中間報告

就職部長 千 熊 正 彦

21世紀新時代の幕開けを迎え、薬系大学の新卒採用を取り巻く状況は、景気の低迷に加え、薬価切り下げ、医療保険制度改革及び医薬分業の急速な進展により、数年前からドラスティックに変貌しています。さらに、就職協定の実質的廃止により企業の就職活動は、早期化（一部は3年次生の2月下旬頃）、長期化、多様化が一層進む見通しであり、また、求人情報にインターネットを利用するところもあり、これらの変動に対応していかなければならない就職活動は学生にとって大変厳しい状況にあります。

このような状況下で新4年次生（平成12年度）348名（男子97名、女子251名）には、すでに3年次に3回にわたり就職ガイダンス（平成11年9月、12月、平成12年1月）を行いました。第3回目には、本学では2回目の試みとして、製薬会社18社及び薬局11社の参加、協力を得て学内で企業説明会を実施しました。また、3月には学生の職種選択と就職活動の一助として、希望職種別に昨年度の求人先、時期などについて紹介しながら個人面談を行いました。その進路希望調査結果によれば、女子の薬業関連企業（営業、内勤）と病院（薬局）への就職希望者数が多いのが特徴でした。

一方、求人状況を見ますと、薬業関連企業では例年より少し明るさが見えてきましたが、病院は昨年よりさらに厳しさが増し、その反面、調剤薬局・ドラッグストアなどでは求人が激増しております。求人総数は多いのですが、学生の希望する職種が必ずしも多いわけではありません。このギャップが私どもの悩みであります。

本年度の就職活動は、製薬企業（MR）や一部の調剤薬局・ドラッグストアなどのセミナーが始まった3月頃より活発化しました。10月20日現在の進路内定状況は表に示す通りです。全業種の内定率は昨年と比べ10%高い状況（昨年52.4%、今年62.4%）

にありますが、これは製薬企業の医薬情報担当者（MR）、薬局・ドラッグストアの大幅な求人増加に起因しています。また、未定の多くは病院薬剤師を第一希望としている学生です。

最近の就職活動において、企業は勿論のこと病院、薬局などで学生の目的意識、マナーさらにはコミュニケーションの能力などが重視されております。今年度の3年次生325名（男子116名、女子209名）には、9月25日に第1回目の就職ガイダンスを行い、薬学生を取り巻く最近の就職環境等を紹介し、卒業後の進路を真剣に考えるよう指導しております。

学生にとって就職は、自ら学んできたことを糧に社会へ旅立つ重要な第一歩であります。就職部では、従来通り学生一人一人の適性や能力に応じてきめ細かな就職指導、相談を行い、学生が満足のいく就職活動ができるように努力しておりますが、関係各位におかれましても本学学生の就職につきましてご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

## 平成12年度卒業予定者（48期生）進路内定状況

（平成12年10月20日現在）

区 分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業（営業）	20	20.6	32	12.7	52	14.9
（内勤）	1	1.0	12	4.8	13	3.7
病院・診療所	1	1.0	2	0.8	3	0.9
病院研修生			12	4.8	12	3.4
薬局・小売	7	7.2	71	28.3	78	22.4
公務員 教職員						
大学院・研究生	32	33.0	25	10.0	57	16.4
その他	1	1.0	1	0.4	2	0.6

内 定	62	63.9	155	61.8	217	62.4
未 定	35	36.1	96	38.2	131	37.6
合 計	97	100.0	251	100.0	348	100.0

（小数点第2位四捨五入）

# 平成11年度 学校法人決算について

事務局長 河野 光次

去る平成12年5月24日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成11年度決算が審議のうえ承認されたので、資金収支計算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

尚、従来は消費収支計算書を掲載し決算の説明を行っていたが、よりわかりやすく説明するために今回より資金収支計算書を用いることとした。

平成11年度の学費改定（5万円値上）などのため、学生納付金が予算よりも約7千7百万円の増収となったことや、文部省施設設備補助金が約4千7百万円

交付されたこと等により、資金収入合計は、予算よりも約1億3千9百万円の増収であった。

また、人件費が予算よりも約7千2百万円の減であったことや、銀行借入金の金利が低いまま推移したため借入金利息が予算よりも約4千万円の減となったこと等により、資金支出合計は、予算よりも約3千8百万円の減であった。

以上の結果、次年度繰越金は、前年度よりも約1億円の増加となった。

## 平成11年度 資金収支計算書

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

収入の部 (単位千円)			
科目	予算	決算	差異
学生納付金	2,449,500	2,526,590	△ 77,090
手数料	101,100	122,402	△ 21,302
寄付金	5,000	15,178	△ 10,178
補助金	283,200	298,210	△ 15,010
資産運用収入	5,000	5,208	△ 208
資産売却収入	0	49,297	△ 49,297
事業収入	28,000	70,474	△ 42,474
雑収入	45,000	41,480	3,520
前受金収入	420,000	454,100	△ 34,100
その他の収入	102,800	106,401	△ 3,601
資金収入調整勘定	△ 480,000	△ 591,140	111,140
資金収入合計	2,959,600	3,098,200	△ 138,600
前年度繰越支払資金	983,000	1,020,187	△ 37,187
収入の部合計	3,942,600	4,118,387	△ 175,787

支出の部 (単位千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,367,500	1,295,235	72,265
教育研究経費	495,800	414,708	81,092
管理経費	92,100	204,816	△ 112,716
借入金等利息	322,400	281,949	40,451
借入金等返済	363,000	362,790	210
施設関係支出	7,300	69,283	△ 61,983
設備関係支出	292,900	277,525	15,375
資産運用支出	3,000	51,000	△ 48,000
その他の支出	141,100	139,073	2,027
予備費	10,000	0	10,000
資金支出調整勘定	△ 58,500	△ 97,717	39,217
資金支出合計	3,036,600	2,998,662	37,938
次年度繰越支払資金	906,000	1,119,725	△ 213,725
支出の部合計	3,942,600	4,118,387	△ 175,787

### ■ 来年度の学費について (学部)

本学では、平成5年度より学費スライド制を実施しています。

これに伴い、来年度（平成13年度）の学費について諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、来年度の学費改定は実施しないことになりました。

したがって、平成5年度以降入学生の来年度の学費は、右表のとおり本年度と同額となります。

費目	金額 (円)
授業料 (年額)	1,200,000
施設・設備費 (年額)	600,000
計	1,800,000

### ■ 法人人事

監事就任 (平成12年7月24日付 任期2年)

石井 通洋 野村 美夫

監事退任 (平成12年7月23日付 任期満了)

上島 育二

## 教務課だより

### 平成13年度 大学院薬学研究科博士前期課程 (修士課程) 入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 6名  
出願期間 平成12年6月5日(月)～6月23日(金)  
面接試験 7月3日(月)  
合格発表 7月10日(月)  
志願者 6名(男子2名, 女子4名)  
受験者 6名(男子2名, 女子4名)  
合格者 6名(男子2名, 女子4名)

(一般入試1次)

募集人員 24名  
出願期間 平成12年7月21日(金)～8月3日(木)  
学力試験 8月21日(月)[外国語科目(英語), 専門科目]  
合格発表 8月28日(月)  
志願者 45名(男子34名, 女子11名)  
受験者 45名(男子34名, 女子11名)  
合格者 32名(男子24名, 女子8名)

(一般入試2次)

募集人員 若干名  
出願期間 平成12年10月6日(金)～10月12日(木)  
学力試験 10月20日(金)[外国語科目(英語), 専門科目]  
合格発表 10月25日(水)  
志願者 13名(男子9名, 女子4名)  
受験者 12名(男子9名, 女子3名)  
合格者 8名(男子6名, 女子2名)

◇ ◇ ◇

### 学位授与

[博士]

論博第27号 博士(薬学) 草野 昭子

サラシナショウマ (*Cimicifuga simplex*) の真正トリテルペン配糖体に関する化学的研究  
(平成12年4月25日付)

論博第28号 博士(薬学) 小林 一郎

プロプラノロールの経皮投与による皮膚反応に関する研究  
(平成12年9月29日付)

## 図書館だより

### ◆ 図書紹介

#### ○ 岩波講座・現代医学の基礎 (全15巻)

病気を理解する上で欠かせない最新の基礎知識を厳選して解説しています。従来の枠組みにとらわれない新たな基礎医学の大系です。

#### ○ PEPTIDE CHEMISTRY 1977-1996 (全20冊)

この図書は日本ペプチド学会創設時より学会で発表された研究成果の要旨集で、日本におけるペプチド化学の発展経過を知ることができます。

(石田寿昌教授 寄贈)

### ◆ 図書館利用状況

過去3年間(平成9年度から平成11年度)における図書館の入館者数・貸出冊数はつぎの通りです。

#### ○ 入館者数

(人)

年 度	9年度	10年度	11年度
1年次	8,332	7,051	7,371
2年次	4,776	8,122	9,073
3年次	13,354	11,697	16,331
4年次	18,653	16,220	15,248
院 生	4,269	4,252	4,249
教職員	6,039	4,976	4,704
外来者	323	297	259
合 計	55,746	52,615	57,235

#### ○ 貸出冊数

(冊)

年 度	9年度	10年度	11年度
学 生	3,812	4,188	5,663
教職員	1,064	745	889
合 計	4,876	4,933	6,552

## 学生課だより

### ○ 学生証の更新について

黄色の学生証（平成11年及び平成9年以前の入学）の有効期限は、平成13年3月31日までとなっています。このため新年度に向けて学生証更新の手続きが必要になります。更新時期・手続きは、学生部の掲示板で案内しますので、見落とさないようにしてください。

○ 自動車・単車（原付を含む）通学の禁止について  
本学では、通学途上の事故防止、近隣住民への騒音や路上駐車による迷惑防止、構内の交通安全を確保し学園環境を保全するため自動車・単車による通学を原則として禁止しています。

しかしながら、近隣路上に迷惑駐車する学生が、後を絶ちません。利便性のためこれぐらいはという安易な駐車が、住民には大きな迷惑となっています。学生自身の安全のためにも、近隣住民への迷惑防止のためにも、学内ルールを守り、公共交通機関などを利用し通学するようにしてください。

## 奨学生状況

平成12年11月1日現在

### 1. 日本育英会

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
第一種	22	27	26	18	7	8	1	2	0	111
第二種	—	—	13	16	—	—	—	—	—	29
きぼう21	62	52	23	8	5	4	—	—	—	154
計	84	79	62	42	12	12	1	2	0	294

### 2. その他の育英・奨学会

区 分	(月額)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
伊予三島	25,000円	1	0	0	0	—	1	貸与
(財)岡山県	47,000円	0	0	2	1	—	3	貸与
岐阜県	16,000円	1	0	0	0	—	1	貸与
岐阜市	39,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
(財)交通遺児育英会	50,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
鯖江市	28,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
島根県育英会	52,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
東大阪市	17,000円	0	0	0	1	—	1	貸与
(財)大阪府	29,000円	0	0	0	2	—	2	貸与
(財)奥村奨学会	30,000円	0	0	1	0	—	1	給付
(財)小野奨学会	学部30,000円 大学院60,000円	1	1	2	1	1	6	給付
(財)佐藤奨学会	19,500円	0	0	1	0	—	1	給付
(財)大東育英会	25,000円	1	0	1	1	—	3	給付
(財)朝鮮奨学会	25,000円	0	0	1	0	—	1	給付
(財)南都育英会	50,000円	0	0	1	0	—	1	(貸)一部給付
育友会奨学会	40,000円	2	0	3	6	1	12	貸与
合計		6	3	15	12	2	38	

○財団法人小野奨学会より表彰される

3年次生の浦田元樹さんは、(財)小野奨学会(久保井一匡理事長)より平成11年度の成績優秀者として善行表彰を受けました。

同奨学会は毎年成績の優秀な者、課外活動などで顕著な成績をおさめた者に対して、同奨学生の中から3~4名が選考のうえ表彰されています。本学では平成5年、6年の岸田朋子さん以来2人目の受賞となり、平成12年6月7日矢内原学長より表彰状と副賞(図書券)が手渡されました。



「関西薬連・全国薬連大会」結果(平成12年度)

▶ 関西薬連

部名	団体	個人	
剣道部	男子4位	個人3位	谷③
	女子2位	個人4位	梅本①
硬式庭球部	男子3位		
	女子1位	シングルス	
		1位	北村①
		2位	南口③
硬式野球部	4位		
サッカー部	4位		
柔道部	男子1位	有段2位	友重③
		無段2位	佐々木③
	女子—	個人2位	井上④
		3位	池林①
ソフトテニス部	男子5位	ダブルス	
		2位	倉田③
	女子4位		小谷②

卓球部	男子1位	シングルス	
		2位	中田③
		3位	浦田③
		3位	頼原③
		ダブルス	
		2位	上田③
			頼原③
		3位	島上③
			安東②
	女子1位	シングルス	
		2位	佐々木②
		3位	村岡②
		ダブルス	
		1位	佐々木②
			村岡②
バスケットボール部	男子2位		
	女子2位		
バドミントン部	男子4位	ダブルス	
		3位	青柳④
			福田③
	女子5位	ダブルス	
		3位	氏家③
			富士①
		新人戦	
		2位	佐々木①
バレーボール部	男子4位		
	女子2位		
陸上競技部	総合3位		
	男子	トラック	
		—	
		4×100mリレー	
		3位	
		フィールド	
		3位	
		走り高跳び	
		1位	堀部①
		2位	
	女子	トラック	
		4×100mリレー	
		2位	
		800m	1位
			栗村③
		100mハードル	
		2位	尹③
		フィールド	
		2位	
		走り高跳び	
		1位	尹③
		2位	松井③
		走り幅跳び	
		3位	松井③
		円盤投げ	
		1位	森廣②
		やり投げ	
		3位	森廣②
▶ 全国薬連			
剣道部	男子ベスト8		
	女子—		
ソフトテニス部	男子3位		
	女子2位		
卓球部	男子—		
	女子決勝トーナメント敗退		
	シングルス		
	2位		佐々木②
	ダブルス		
	2位		佐々木②
			村岡②
バスケットボール部	男子—		
	女子6位		

注) ○内は学年  
— は予選敗退

## 総務課だより

### □ 人 事 □

配置換 (平成12年7月1日付)

村田 祐子 (学生課主任/教務課主任より)  
小谷川洋子 (入試・広報課/学生課より)

招へい教授 (平成12年9月1日付 期間1年)

藤原 隆二 (客員研究員)

非常勤講師 (平成12年9月25日付)

斎藤 武 (数学2)  
田口 侑男 (数学2)  
中塚 宗次 (薬事関連法・制度)  
中村 益久 (臨床薬理学1)  
中村 恵 (ドイツ語2)  
藤田 義孝 (フランス語2)  
榎矢 桂 (ドイツ語4)  
村田 吉郎 (病態生理学2)  
望月伸三郎 (健康科学)  
山内 真理 (英語2)  
Joseph Michael Jacobs (英語4)  
Julianne Gay Whitlam (英語4)

客員研究員 (平成12年6月1日付 期間10ヶ月)

草野 昭子  
(平成12年7月1日付 期間9ヶ月)

寺野 由剛  
(平成12年10月1日付 期間1年)

木戸 正  
(平成12年10月15日付 期間1年)

内田 武  
(平成12年12月1日付 期間4ヶ月)

森野 重信

外国人客員研究員 (平成12年10月1日付 期間半年)

王 年鶴

嘱託 (平成12年12月1日付 期間4ヶ月)

板倉佐恵子 (学生相談室相談員)

### □ 海外出張 □

黒田 和道 助教授, 原田 勇一 助手  
(第二微生物学教室)

<出張期間: 平成12年6月23日~7月3日>

11th International Conference on Negative  
Strand Viruses

(Quebec City, Canada) に出席  
馬場きみ江 助教授, 谷口 雅彦 助手

(第二生薬学教室)

<出張期間: 平成12年6月27日~6月29日>  
アシタバに関する学術講演

(台北, 台湾) にて発表  
井上 晴嗣 助教授, 藤井 忍 助手

(第一生化学教室)

<出張期間: 平成12年7月7日~7月17日>  
FASEB Summer Research Conference on

Phospholipases  
(Colorado, USA) にて発表

坂田 勝治 教授 (英語教室)

<出張期間: 平成12年8月6日~9月17日>  
University of California, Los Angeles

Summer Sessions (C)  
(Los Angeles, USA) に参加

玄番 宗一 教授 (第二薬理学教室)

<出張期間: 平成12年8月22日~8月27日>  
第2回アジアトキシコロジー学会

(済州島, 韓国) にて発表

谷口 雅彦 助手 (第二生薬学教室)

<出張期間: 平成12年9月10日~9月20日>  
中国産セリ科生薬の現地調査および基原植物の採

集  
(雲南省, 中国) にて調査, 採集

齊藤 睦弘 講師 (第一分析化学教室)

<出張期間: 平成12年9月30日~10月6日>  
7th International Symposium on Selenium

in Biology and Medicine  
(Venezia, Italy) にて発表

田中 一彦 教授 (臨床薬剤学教室)

<出張期間: 平成12年10月8日~10月14日>  
交換留学制度等の可能性の検討他

(Cincinnati, USA) にて視察

浦田 秀仁 助手 (第二薬品製造学教室)

<出張期間: 平成12年12月15日~12月20日>  
The 2000 International Chemical Congress

of Pacific Basin Societies  
(Honolulu, Hawaii, USA) に参加

千熊 正彦 教授 (第一分析化学教室)

<出張期間: 平成12年12月14日~12月20日>  
The 2000 International Chemical Congress

of Pacific Basin Societies  
(Honolulu, Hawaii, USA) に参加



## 平成12年度後期行事予定

- |           |   |          |   |
|-----------|---|----------|---|
| 9. 1(金)   | 前期再試験受験者発表（1～3年次生）                        | 1. 9(火)  | 後期授業後半開始（1～3年次生）                          |
| 9. 1(金)   | }   | 1. 9(火)  | 薬学総合演習正規試験（4年次生）                          |
|           |   | 1. 10(水) |   |
| 9. 19(火)  | 前期再試験（4年次生・1～4年次全科目）                      | 1. 12(金) | 後期授業後半終了（1～3年次生）                          |
| 9. 7(木)   | }   | 1. 15(月) | 後期定期試験（1～3年次生）                            |
|           |   | 1. 30(火) |   |
| 9. 22(金)  | 前期再試験（1～3年次生）                             | 1. 19(金) | 平成13年度大学入試センター試験実施準備（午後臨時休講）              |
| 9. 10(日)  | 平成13年度編入学試験（H方式）                          | 1. 20(土) | 平成13年度大学入試センター試験〔センター試験利用入学試験（C方式）〕       |
| 9. 18(月)  | 平成13年度編入学試験（H方式）合格者発表                     | 1. 21(日) |   |
| 9. 25(月)  | 後期授業前半開始（1～3年次生）<br>就職ガイダンス（3年次生）         | 1. 30(火) | 就職ガイダンス（3年次生）                             |
| 9. 26(火)  | 特別再試験（4年次生）受験者発表                          | 1. 31(水) | 後期定期試験（1～3年次生）欠席届提出締切（教務課）午後1時            |
| 9. 29(金)  | 後期選択科目・選択必修科目（1～3年次生）<br>履修届提出締切（教務課）午後3時 | 2. 1(木)  | 平成13年度一般入学試験Ⅰ（F方式）（本学・大阪予備校・広島国際会議場）      |
| 10. 2(月)  | }   | 2. 7(木)  | 平成13年度センター試験利用入学試験（C方式）・一般入学試験Ⅰ（F方式）合格者発表 |
|           |   | 2. 7(木)  | 薬学総合演習再試験（4年次生）                           |
| 12. 18(月) | 薬学総合演習第1回総合試験（4年次生）                       | 2. 8(木)  |   |
| 10. 7(土)  | 平成13年度A〇入学試験（A方式）第2次選考                    | 2. 8(木)  |   |
| 10. 15(日) | 平成13年度（第2次）大学院修士課程一般入学試験                  | 2. 9(金)  | 薬学総合演習第4回総合試験（4年次生）                       |
| 10. 20(金) | 平成13年度（第2次）大学院修士課程一般入学試験合格者発表             | 2. 10(土) |   |
| 10. 25(水) | 平成13年度（第2次）大学院修士課程一般入学試験合格者発表             | 2. 13(火) | }   |
| 10. 31(火) | 平成13年度A〇入学試験（A方式）合格者発表                    | 2. 27(火) |   |
| 11. 2(木)  | 第35回大薬祭準備（午後臨時休講）                         | 2. 15(木) | 卒業生発表・特別再試験および薬学総合演習再試験（4年次生）成績発表（教務課）    |
| 11. 3(金)  | }   | 2. 16(金) | 平成13年度一般入学試験Ⅱ（G方式）合格者発表                   |
|           |   | 3. 1(木)  | 3年次特別再試験受験者発表                             |
| 11. 6(月)  | 第35回大薬祭等（臨時休講）                            | 3. 2(金)  | }   |
| 11. 11(土) | 薬学総合演習第2回総合試験（4年次生）                       | 3. 3(土)  |   |
| 11. 12(日) | 平成13年度推薦入学試験（S方式）・帰国生徒特別選抜入学試験（K方式）       | 3. 7(月)  | 薬剤師国家試験全国統一模擬試験（4年次生）                     |
| 11. 22(水) | 平成13年度推薦入学試験（S方式）・帰国生徒特別選抜入学試験（K方式）合格者発表  | 3. 上旬・下旬 | 就職個人面談（3年次生）                              |
| 12. 9(土)  | 薬学総合演習第3回総合試験（4年次生）                       | 3. 6(火)  | }   |
| 12. 13(水) | 実験動物慰霊祭                                   | 3. 8(木)  |   |
| 12. 21(木) | 就職ガイダンス（3年次生）                             | 3. 10(土) | 第48期学部卒業式および第25期大学院学位記授与式                 |
| 12. 22(金) | 後期授業前半終了（1～3年次生）                          | 3. 16(金) | 進級者発表・進級者未修得科目発表（教務課）                     |
| 12. 19(火) | 平成12年度臨床薬学実習報告会（4年次生臨床薬学実習コース）            | 3. 24(土) | }   |
|           |   | 3. 25(日) |   |

# 薬 業

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1004 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>